

# 平成 27 年度 末 学 校 評 価

愛南町立平城小学校

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満 (上段:中間期 下段:年度末)

項目	重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果				
						4	3	2	1	?
1 教育課程・学習指導	確かな学力の定着向上に努める	① 授業時数が確保され、授業内容が計画通り実施できているか。 目標値 調査結果で、90%以上達成	A	◇ 時数の不足している教科が少しあるが、今後確保することができる予定である。 ◆ 懇談会・行事等の時間設定や専科教員による授業等で時数を確保していく。また、時数調整については、見直しをもって計画的に授業を行い、学期末に無理がいかないようにする。	授業時数集計結果 週案 教職員アンケート	不足している学年はあるがわずかである。 39%	61%	0%	0%	0%
			A	◇ どの学年も、不足なく確保することができた。また、授業内容についても、見直しをもって計画的に実施することができた。 ◆ 教務主任が資料を提示し、今後も見直しをもって時数確保するとともに、授業内容を計画的に実施していく。	授業時数集計結果 週案 教職員アンケート	58%	44%	0%	0%	0%
		② ねらいを明確にして、分かる授業の実施に努めているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 学習課題を児童にきちんと把握させることで、児童が学習活動に対して意欲をもって取り組むことができている。 ◆ 教師がねらいを明確にして授業を組み立てると意識を徹底させるとともに、保護者へも情報発信していきたい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	18%	76%	6%	0%	0%
			A	◇ 児童に学習の見直しをもたせ、ねらいを明確にして取り組むことにより、学習に対する意欲も高まった。また、繰り返しの時間を確保し、次に生かすよう心掛けている。保護者への情報発信が不十分であったことを反省している。 ◆ 児童の実態をきちんと把握し、身に付けさせたい力を単元ごとに整理するとともに、評価や振り返りを徹底していく。また、学校便りや学年便り、ホームページを通して、保護者等への情報発信に努める。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	26%	74%	0%	0%	0%
		③ 音読・視写、文章を読む1週間に3回以上行ったか。 目標値 教職員の80%以上が達成	B	◇ 授業中だけでなく、ドリルタイムや家庭学習の中に取り入れてきたことにより、児童に習慣付けできた。効果はすぐには出ないが、学力の素地づくりとして大切にしていきたい。 ◆ 時間設定や具体的取組の提示等、共通理解をして取り組む手立てが必要である。また、家庭学習で行ったことを授業の中で生かしていけるような授業展開を考えていくことも大切である。	教職員アンケート	4回	3回	2回	1回	0回
			A	◇ 授業・ドリルタイム・家庭学習に継続して取り入れてきた。次第に意識も高まり、成果も少しずつ見られるようになってきた。 ◆ さらなる向上を目指して、時間等の条件を設定したり、情報交換をしたりしながら、継続した取組みをしていく。意欲や意識の低い児童に対して、授業展開の工夫や、保護者の意識を高める工夫をしていく必要がある。	教職員アンケート	4回	3回	2回	1回	0回
		④ 自分の考えを書く活動を取り入れた授業を授業時数の半分以上実施したか。 目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 自分の考えを書く活動を意図的に取り入れることで、児童の発言が増えた。しかしながら、書くことの指導を取り入れた授業改善がまだまだ不足している。 ◆ 研修会等をおして、具体的な指導の情報交換をしながら、児童が自分の考えをもって主体的に取り組むための「書く活動」を有効に取り入れていきたい。さらに、実践しながら、よりよい方法を見つけていきたい。	教職員アンケート	13%	62%	19%	6%	0%
			A	◇ 自分の考えを書く活動を意図的に多く取り入れた。ワークシートの工夫をしたことにより、児童は書くことに慣れ、読む力・書く力が少しずつ向上してきた。また、意見交流の活性化も図られた。 ◆ 一人一人に学習内容を理解させたうえで、自分の考えを書く時間をしっかりと確保していきたい。また、語彙力の育成に向けて、よりよい指導法や授業展開の工夫についての研修を深めていきたい。	教職員アンケート	27%	67%	7%	0%	0%
		⑤ 低学年20分、中学年45分、高学年75分以上の家庭学習の習慣が身に付いているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 児童と教師・保護者の結果に大きなずれがある。児童は、時間的にはやっているが、その内容や方法に課題があると考えられる。また、児童の取組についての個人差が大きいうえ、1時間程度でできる宿題の量でも、「宿題が多すぎる」という保護者もいるなど、保護者の個人差もある。 ◆ 家庭学習の様子について、もう少し詳しく把握したうえで、家庭学習の内容や基準量等について研修会等で話し合い、児童への指導を徹底するとともに、保護者へも啓発していく。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	7%	50%	29%	14%	0%
			B	◇ 児童と保護者・教職員の意識のずれがある。帰宅してすぐに家庭学習や自主学習をする習慣が身に付いている児童もいるが、まだまだ望ましい家庭学習の習慣が身に付いていない児童も多い等、個人差が大きい。家庭へ啓発したり連絡を取り合ったりしているが、なかなか改善されない家庭もある。 ◆ 家庭学習については、保護者の協力が不可欠であるため、実態把握と家庭への啓発は継続して行う。家庭学習の内容や量は、低・中・高学年部会で情報交換していく必要がある。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	27%	45%	27%	0%	0%
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>深く読んで理解しないといけないような宿題プリントや、自主学習など、家庭学習が充実するような宿題の工夫がなされていてよいと思う。望ましい家庭学習の習慣は、低学年のうちに家庭でしっかりと身に付けさせる必要があるため、PとTで共通理解を図って習慣付けしてほしい。そのために、保護者の意識を高めるための研修会を開く等、啓発の工夫をしていく必要があるのではないかな。</li> <li>教職員や保護者の評価に比べて児童の評価はやや高いが、自己評価が甘いのではないかな。</li> <li>「書く活動」を充実させるための取組は、思考力も深まることなので、とてもよいと思う。今後も引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時数の確保ばかりに目を向けるのではなく、授業内容に重きを置き、ねらいを明確にした分かる授業の実践に努める。</li> <li>参観日等に時間を確保して、保護者と、帰宅後の児童の様子や、宿題の量や質、友人関係等についての情報交換をするとともに、学校での様子や学習状況・学力の状況等を伝える機会を設け、共通理解を確り、学校と家庭が両輪となって、望ましい学習習慣を身に付けさせるよう努める。</li> <li>児童が「書く活動」に対しての抵抗を取り除けるような支援の工夫をしたり、キーワードや文字数などを決めて書かせるなど、学年に応じた取組の工夫をして、より一層「書く活動」を充実させるよう努める。</li> </ul>							

1 教育課程・学習指導	心の教育の充実に努める	⑥ 体験活動等を生かした心に響く道徳教育の実践に努めているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 教職員の結果に4の評価がないのは反省しなければいけない。謙虚に答えているのかもしれないが、実践に努めていると自信がもてないのは問題である。 ◆ 行事や他教科との関連を図りながら、さらなる教材研究をして実践に努めるとともに、日々の授業の中で、それぞれが意識をもって実践していく必要がある。	教職員アンケート	0%	84%	8%	8%	0%
			A	◇ 学校行事等との関連を図りながら、授業だけでなく日々の生活の中でも意識して指導を行ってきた。まだまだ4の評価が少ないのは課題である。 ◆ 今後も、各教科や行事との関連を図りながら実践していくとともに、指導のあり方についての研究を深めていきたい。また、保護者へも道徳の大切さを呼び掛けていきたい。	教職員アンケート	7%	86%	7%	0%	0%
		⑦ 児童一人一人を大切に学級経営を行い、望ましい人間関係づくりに努めているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 教職員・児童・保護者ともに、昨年度に比べて、若干ではあるが評価がよくなっているが、まだまだ、児童の中には、友達の良い気持ちは考えなかったり、自己肯定感が低く、友達の言動をマイナスに受け止めてしまう児童がいる。 ◆ あらゆる場面で児童理解に努め、個に応じた支援をするとともに、お互いが助け合える雰囲気を作りたい。	教職員アンケート	23%	69%	0%	8%	0%
			A	◇ 思いやりの心を育て、互いのよさを認め合えるような雰囲気づくりを努めてきた。まだ自己肯定感が低い児童や友達の嫌がる言動をとる児童がいる。 ◆ 自己肯定感が低い児童や友達の嫌がる言動をとる児童には、一人一人の実態に応じて、その都度指導していくとともに、保護者へも働き掛けながら、望ましい人間関係づくりに努めていく。	教職員アンケート	29%	71%	0%	0%	0%
		⑧ 人権・同和教育に視点をあてた学習を計画通り実施しているか。 目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 年間指導計画に沿って計画的に実施しているが、その内容や実施方法等について、教師自身がまだまだ自信がもてていないのが現状である。 ◆ すべての教育活動の中で人権の視点を意識しておくことはもちろん、さらに研修を深め、自信をもって人権・同和教育の視点を強く意識した授業を展開していくよう努める。	教職員アンケート	7%	79%	7%	7%	0%
			A	◇ 中間期に比べて評価がよくなってきた。研修を深めるとともに、校区別人権・同和教育懇談会等を通して、保護者や地域の方々への啓発も行うことができた。 ◆ 今後も、研修会等へ積極的に参加し、人権・同和教育に視点をあてた学習を進めるとともに、保護者や地域に啓発していきたい。	教職員アンケート	13%	87%	0%	0%	0%
	⑨ 差別や偏見につながる問題の解決が日常的に図られているか。 目標値 教職員・児童の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 児童の様子や日々の小さな変化に気付けるよう、日記指導や日常の会話等を大切にできた。大きな問題はないが、時々、思いやりやに欠ける言動等がある。 ◆ 日々児童の様子や変化に気付けるよう、引き続き日記指導や会話を大切にしていくとともに、昼休み等には、努めて児童と遊ぶようにする。また、特別支援学級に対する意識について、指導をしていく必要がある。	教職員アンケート	12%	82%	6%	0%	0%	
		A	◇ 中間期に比べ、評価がよくなってきた。引き続き、日頃の会話や日記指導を大切にできた。人を傷つける言動や思いやりやに欠ける言動については、その都度、毅然とした態度で指導してきた。 ◆ 児童との会話をさらに増やしたり、児童同士の会話にも耳を傾けたりするとともに、日記指導にも引き続き力を入れ、問題の早期発見・早期解決に努める。	教職員アンケート	30%	85%	5%	0%	0%	
	学校関係者評価委員の所見	・ いろいろな場面で一人一人にしっかりと目を向け、実態を把握して指導してほしい。 ・ 人権について、段階的に理解させていくために、困っている子やけがや病気の子への心配りや気遣いなどから、他人に対する思いやりを身に付けさせていけるといふこと。 ・ 「ありがとうカード」や「ほめほめの木」などを活用し、友達のよさを見つけようとする意識を高めるとともに、屋の放送などを通して、思いやりのある行動を学校全体に広げよう努める。	学校の対応	・ 体験活動については、学校行事との関連を図りながら、計画的に実施していく。 ・ 日々の生活の中で、たくさんの教師ができるだけ多くの児童とかかわりを持ち、児童一人一人に対して、声を掛け、目を掛け、耳を傾けて子どもの気持ちに寄り添うよう努める。 ・ 様々な場面を捉えて、それを共通の課題として一人一人に考えさせる時間を設けるよう努める。 ・ 児童の様子について、全教職員が共通理解を図り、足並みをそろえた対応ができるようにする。 ・ 「ありがとうカード」や「ほめほめの木」などを活用し、友達のよさを見つけようとする意識を高めるとともに、屋の放送などを通して、思いやりのある行動を学校全体に広げよう努める。	児童アンケート	53%	36%	9%	2%	0%
				教職員アンケート	65%	28%	6%	2%	0%	

2 生徒指導	生徒指導の充実と健全育成に努める	① 進んであいさつができる児童が育っているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ まだまだ個人差がある。また、登下校中や教師に対してはできるが、友達同士や地域でのあいさつは、まだまだできない児童が多い。 ◆ いつでもどこでも、自分から進んで気持ちのよいあいさつができるよう、指導を徹底していきたい。児童会や人権委員会の取組を、全校児童に浸透させるよう工夫していく。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート	6% 54% 23% 44%	72% 40% 54% 50%	22% 15% 5% 6%	0% 1% 3% 0%	0% 0% 4% 0%	
		② いじめ・不登校の早期発見、早期対応に努めているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ できる、できないだけでなく、それを判断する意識にも個人差がある。登下校時や教職員へ対してはできるが、来客に対してや地域の中ではまだまだできない児童が多い。 ◆ 家庭と協力しながらあいさつの大切さをしっかりと理解させるとともに、教職員・保護者が積極的にあいさつをするように心掛けたい。スマイルあいさつデー等の啓発運動を引き続き行うことにより、その効果も期待したい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート	6% 54% 20% 22%	89% 41% 60% 72%	6% 5% 14% 6%	0% 1% 2% 0%	0% 0% 4% 0%	
		③ スクールソーシャルワーカーを活用したり、教育相談による児童理解に努めたりしながら、児童の悩みに積極的に対応しているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 児童理解に努めるとともに、情報交換を密にして、早期発見に努めてきた。いくつかの問題行動はあったが、学級担任だけでなく、学校として組織的に対応するとともに、関係諸機関とも連携を図りながら対応してきた。 ◆ 学校での児童の様子だけでなく、地域や家庭での様子や情報をさらに把握するよう、アンテナを広げていきたい。また、全教職員の共通理解のもと、家庭との連携を深めるとともに、関係諸機関との連携も深めて、さらなる早期発見・対応に努めていく。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	18% 88% 10%	76% 9% 46%	0% 3% 7%	6% 0% 3%	0% 0% 35%	
		学校関係者評価委員の所見	学校の対応	◇ 引き続き児童理解や情報交換に努め、問題の早期発見・早期解決に努めてきた。まだ改善できていない部分もあるが、管理職やスクールソーシャルワーカー・関係機関等と連携して、組織的に対応してきた。 ◆ まだまだ見えていない部分もあると思うので、引き続き情報網をしっかりと広げ、早期発見に努めるとともに、保護者の理解を得るよう、情報発信もしていきたい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	22% 84% 11%	67% 11% 49%	11% 3% 8%	0% 2% 2%	0% 0% 31%	
				◇ スクールソーシャルワーカーは、児童や保護者にかかわっていただくだけでなく、教職員の話を聞いていただいたり、情報を提供していただいたりして、とてもありがたい。 ◆ スクールソーシャルワーカーとの連携をさらに深めるとともに、全教職員が児童と話す機会を設ける等、教育相談をより充実させて、児童の悩みの発見や解決に向けて取り組んでいきたい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	6% 64% 9%	70% 19% 54%	18% 9% 6%	6% 8% 5%	0% 0% 26%	
				◇ 保護者の「？」が多いのが気になる。スクールソーシャルワーカーにかかわっていただいたことはとてもありがたかった。 ◆ 今後も児童理解に努めるとともに、教育相談の時間を確保して充実させていきたい。また、保護者との連携を深めるとともに、情報発信にも力を入れる必要がある。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	12% 61% 12%	65% 20% 48%	24% 11% 8%	0% 9% 3%	0% 0% 28%	
	◇ 教師から積極的にあいさつをし、学校全体であいさつが自然とできる雰囲気をつくっていくとともに、保護者・地域とも連携して、いつでも進んであいさつのできる子を育てていく。 ◆ あいさつの意義や必要性を具体的に指導するとともに、スマイルあいさつデーや人権委員の啓発活動を中心に、あいさつに対する意識を高めさせる。 ◆ 何でも話せる関係を、児童・保護者と築くよう努める。 ◆ 定期的に「なかよしアンケート」を実施し、いじめや児童の悩みの早期発見に努めるとともに、教職員で共通理解を図り、問題の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ◆ 年度初めに、学校だよりや参観日等の機会を通して、スクールソーシャルワーカーの存在を保護者へ周知する。										
	3 保健管理	健康安全教育的の充実 に努める	① 児童に「早寝・早起き・朝ご飯」、「後始末」の習慣が身に付いているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 昨年度からあまり変化がなく、改善されていない。個人差はあるが、児童だけでなく、保護者・教職員の意識もまだまだ低いと思われる。 ◆ 共通理解を図って指導を徹底させていくとともに、PTA行事等を通して、保護者へも啓発し、改善を図ってきたい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	6% 65% 15%	50% 27% 46%	38% 7% 35%	6% 1% 3%	0% 0% 0%
			② 学校給食を通して、児童に望ましい食習慣や運動に親しむ習慣が身に付いているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 昨年度や中間期とあまり変化がない。まだまだ個人差があり、保護者の意識が低いところは児童の意識も低い。意識の低いところは保護者へ連絡を取りながら指導してきたが、あまり実感が見られない。後始末の一つとして、トイレのスリッパがまだまだそろわないのが気になる。 ◆ 学校の指導だけでは難しいので、家庭と協力しながら指導を徹底させていくとともに、保護者への啓発に力を入れていく。改善に向けて、2月の参観日に学校保健委員会を実施して保護者へ啓発する予定である。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	5% 61% 16%	58% 28% 49%	37% 7% 32%	0% 3% 2%	0% 0% 1%
			学校関係者評価委員の所見	学校の対応	◇ 教職員と保護者や児童の評価にずれがある。全体と個人の違いはあるが、意識の違いによるものが多いのではないと思われる。 ◆ 教職員の意識改革だけでなく、保護者の意識改革にもしていく必要がある。保護者との連携を密にしていくとともに、機会をとらえて情報発信や啓発をしていきたい。また、運動については、目標値を設定させる等の工夫をして、意欲化を図ってきたい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	0% 65% 23%	53% 19% 59%	41% 8% 14%	6% 8% 1%	0% 0% 2%
◇ 中間期と比べてやや肯定割合が高くなっている。教職員と保護者の評価のずれは縮まってきたが、児童の評価とは大きな差がある。意識の違いがある。 ◆ 各学級で、マナーを含めた望ましい食習慣の指導を徹底させたり、給食委員会を中心として啓発したりして、意識向上を図る。また、保護者への情報発信や啓発も、ホームページ等を通して行っていく。運動に関しては、体育科の授業の中に工夫して取り入れていく。					教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	6% 65% 24%	78% 20% 65%	17% 7% 7%	0% 8% 1%	0% 0% 2%	
学校関係者評価委員の所見		学校の対応	◇ 家庭との連携が不可欠である。食に関する教育の充実を図るとともに、参観日や学校保健委員会等を活用して、保護者との共通理解を図る。 ◆ 児童や保護者が実践へ向けて意識が高められるような、情報発信や啓発の仕方を工夫していく。 ◆ 引き続き「生活アンケート」を実施し、児童の実態を把握して指導に生かしていく。 ◆ 運動に親しむ習慣付けや体力づくりについては、体育科の授業を中心に、工夫して取り入れていく。								

4	特別支援教育の充実に努める	① 特別支援教育に対する教職員の共通理解が図られ、校内の協力体制が機能しているか。 目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 研修会や児童を見つめる会等で、情報の共有等をして共通理解を図ってきた。 ◆ 今後もさらに研修を深め、具体的な取組等について考えていく必要がある。	教職員アンケート	0%	79%	16%	5%	0%
			A	◇ 研修会で共通理解を図ったり、直接児童とかかわったりすることで、児童理解は深まってきた。また、授業研究会や交流学習等を通して、情報の共有化も図られた。 ◆ 今後も研修を深め、協力体制を強化していくよう努める。	教職員アンケート	0%	95%	5%	0%	0%
		② 特別な教育的支援を必要としている児童に、効果的な指導を行っているか。 目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 4の評価はないが、今の現状としては、TTや個別指導等を通して努力はしている。 ◆ 通常学級にも特別な支援を必要とする児童はたくさんいるため、効果的な指導についてさらに研修を深めるとともに、指導体制についても考えていく必要がある。	教職員アンケート	0%	83%	11%	6%	0%
			A	◇ 今の現状では、個別指導等、できる限りのことはしているが、限界があり、最大限の効果が出ているとは言えない。人手や時間がもったあれば、さらに効果を上げることができるという思いから、4の評価が悪いと考えられる。 ◆ 通常学級にいる、特別な教育的支援や生活支援が必要な児童に対する指導体制を確立していく必要がある。	教職員アンケート	0%	84%	16%	0%	0%
	学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと向き合う時間を確保するための手立てを考えて、できるだけ多く子供にかかわってほしい。</li> <li>支援員の研修する機会を増やしてほしい。</li> <li>通常学級の特別な支援を必要とする児童に対して、校外学習などの時に安全・安心な学習できるよう、保護者や祖父母等の協力を得てほしい。</li> </ul>	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を要する児童一人一人の実態について、全教職員で共通理解を図り、組織的に対応していく。</li> <li>通常学級における特別な教育的支援や生活支援を必要とする児童に対する支援体制はまだ不十分である。教職員間で連携・協力した支援体制を確立していく必要がある。</li> <li>4月から施行される「障害者差別解消法」についての研修を深めるなど、教職員・支援員ともに、さらに校内研修の充実を図る。</li> </ul>						
5	教職員の資質と指導力の向上に努める	① 校内研修は現職教育計画に沿って効果的に実施されているか。 目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 今年度は研究主題や中心教科も新しくなったため、試行錯誤を重ねながらではあるが、計画に沿って計画的に進められている。 ◆ 最も大切な「授業」について、授業研をとおして、授業改善及び資質の向上に努めたい。今後は、少しずつ焦点を絞って研修を深めていきたい。	教職員アンケート	15%	85%	0%	0%	0%
			A	◇ 計画的・効果的に校内研修が進められてきた。授業研究も充実し、互いに学び合うことができた。 ◆ 目的意識をもち、積極的に研究を深めるとともに、今後も教職員が一丸となって取り組んでいけるよう共通理解を図る。	教職員アンケート	47%	53%	0%	0%	0%
		② 校内・校外研修に主体的に参加し、自己研修に努めているか。 目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 校内の研修は、時間の確保がなかなか難しい部分はあるが、計画的に進められているうえ、それぞれが積極的に参加し、充実している。校外研修については、まだまだ満足できていないのが現状である。 ◆ 夏休みを利用して、いろいろな研修に参加する予定である。それを持ち帰り、全員で共有できるようにしていきたい。	教職員アンケート	5%	84%	11%	0%	0%
			A	◇ 校内外の研修会へも積極的に参加し、内容の濃い研修をすることができた。 ◆ 各自で研修したことを全教職員に広げ、共通理解を図りながら、互いの資質向上に努めたい。	教職員アンケート	26%	74%	0%	0%	0%
		③ 信頼される教師として、視野の拡大や資質の向上に努めているか。 目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 教職員間で、指導技術や資質の向上について教え合う場面がある。保護者・地域住民の「？」が多いのは、情報発信不足や日常のかかわりが少ないことが考えられる。 ◆ 日々のていねいな対応と、折に触れ地域に足を向ける等して、信頼を積み重ねていきたい。また、どの教職員でも同じ対応ができるよう、情報の共有化と共通理解をきちんとしておきたい。	教職員アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート	0% 15% 17%	95% 60% 61%	5% 7% 5%	0% 1% 0%	0% 17% 17%
			A	◇ 教職員の肯定評価が高くなっているが、保護者の評価がやや下がっていることや、保護者や地域住民の「？」が多い。 ◆ 信頼される教師として、何が視野の拡大なのか、資質の向上とは何か、教職員全員が共通理解のもと、実践していく必要がある。	教職員アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート	21% 13% 22%	79% 57% 61%	0% 5% 6%	0% 1% 0%	0% 24% 11%
	学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>③の保護者評価「？」が多いのは、放課後夜遅くまで残業されている姿や、休日出勤・研修会などのことを知らないからだと思う。</li> <li>校長がリーダーシップを発揮して、しっかりと研修してほしい。教員としても人間としてもさらに成長してほしい。</li> <li>教師一人一人の個性を生かしながら、全体のバランスよく教育に取り組んでほしい。</li> <li>教育機器の良さを生かして有効活用し、教育効果を上げてほしい。</li> </ul>	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招いての多岐にわたる研修を計画したり、積極的に校外の研修会に参加したりして、資質・能力の向上に努める。また、研修で得たことを、教職員間で共有し、互いに高め合えるようにしていきたい。</li> <li>教職員一人一人が、自分の職務を理解し、信頼される教師として何をすべきかしっかりと考えて積極的に研修に取り組んでいく。</li> </ul>						

6 保護者・地域住民等との連携	保護者・地域住民との連携に努める	① 保護者・地域住民の学校への願いを把握し、適切に対応できるよう努めているか。 目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 保護者・地域住民の要望や意見については、しっかりと受け止め、一人だけで対応せず組織として対応するようにしている。「？」が多いのが気になる。 ◆ 子ども達のことを一番考えての対応が必要である。スピード感と誠実さをもって、今後も組織として、思いに応えられるよう対応していきたい。	教職員アンケート	16%	74%	10%	0%	0%
			A	◇ それぞれの意見を聞き、組織として、その都度適切に対応できるよう努めてきた。 ◆ 保護者の気持ちや児童の気持ちをしっかりと把握するとともに、地域の思いを汲み取りながら、何をどう対応していくかの整理し、その思いに応えられるよう対応していきたい。	教職員アンケート	11%	83%	6%	0%	0%
		② 保護者と教職員が協力したPTA活動が行われているか。 目標値 教職員・保護者の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 参観日等の参加率も高いうえ、役員を中心に、学校の教育活動やPTA活動に協力的な保護者が多い。 ◆ 今後も情報提供に努めるとともに、保護者と教職員の望ましい人間関係を築き、協力して活動していきたい。	教職員アンケート	16%	84%	0%	0%	0%
			A	◇ 毎週の読み聞かせや授業への協力等、とてもありがたい。2学期は行事も多かったのに、保護者の「？」が増えてきているということは、一部の保護者と教職員が協力した活動でしかなかったのではないだろうか。 ◆ 一部の保護者だけにならないよう、引き続き情報提供に努め、互いの人間関係を築いて、多くの保護者との協力体制を確立していきたい。	教職員アンケート	17%	83%	0%	0%	0%
		③ 地域の人材や教育資源を活用するなど地域の教育力を取り入れた教育活動を推進しているか。 目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)	B	◇ 毎年のことながら、登下校の安全指導や授業等に協力していただき感謝している。総合的な学習や生活課を中心に、地域の方々や関係諸機関に協力していただき、学習の効果を上げることができた。 ◆ 「人材バンク」の作成等とおして、何をさせていただくことができるのか精査し、地域に開けた、地域力を活用できるようにしていきたい。	教職員アンケート	16%	79%	5%	0%	0%
			A	◇ 引き続き、登下校時の安全指導に地域の方々の協力を得ることができ、感謝している。授業へも快く協力していただき、学習効果を上げることができ、ありがたかった。 ◆ 教職員間で情報交換をして、全教職員が人材の把握をして活用したり、名簿を作成したりするなどして、今後も地域の教育力を生かした教育活動を実施していきたい。	教職員アンケート	12%	76%	12%	0%	0%
	④ 学校便りやホームページ等で学校の取組が積極的に発信されているか。 目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)	A	◇ 比較的好い評価をいただいているが、学年によって発信回数等に差があった。 ◆ 学年による発信回数や内容に偏りが出ないように努めるとともに、その内容についても充実させるように努めていきたい。	教職員アンケート	26%	63%	0%	11%	0%	
		A	◇ 学校便り・学年便り・ホームページ等で、積極的に情報を発信することができた。努力はしているが、まだ学年によってその回数に差があった。 ◆ ホームページの更新回数が多ければよいというものでもないで、必要に応じて、学校の様子を見ていただけるよう、その内容の検討も含めて努力していきたい。	教職員アンケート	33%	50%	17%	0%	0%	
	学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習の同行やゲストティーチャーなど、保護者や祖父母等の協力が増えている。保護者や祖父母等も喜んでくれる人が多いので、今後も連携を図りながら活用するとともに、学校に足を運びやすいようにしてほしい。</li> <li>ホームページ作成のために時間を取られないよう、何が一番大切か考えて取り組んでほしい。</li> <li>見守り隊を長年続けている方々へ、感謝状などの形で感謝の気持ちを表す必要があるのではないだろうか。</li> </ul>	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読み聞かせやゲストティーチャーなど、ボランティアで教育活動に協力していただき、とてもありがたい。今後も連携を図りながら教育効果をあげたい。また、その取組を学校便りやホームページなどで、広く知らせていきたい。</li> <li>ホームページについては、その内容を充実させるとともに更新にも努めるが、子供とかかわる時間を第一に考え、それに時間を取られ過ぎないように配慮する。</li> <li>毎日の見守り、本当にありがたい。今後、見守り隊の方々との交流や、感謝の気持ちを伝える場を設けるよう計画していきたい。</li> </ul>	保護者アンケート	13%	55%	8%	2%	22%
	地域住民アンケート	22%	66%	6%	0%	6%				
	教職員アンケート	11%	83%	6%	0%	0%				
	保護者アンケート	17%	83%	0%	0%	0%				
地域住民アンケート	22%	66%	6%	0%	6%					
教職員アンケート	16%	84%	0%	0%	0%					
保護者アンケート	19%	65%	6%	1%	9%					
教職員アンケート	17%	83%	0%	0%	0%					
保護者アンケート	16%	62%	7%	1%	16%					
教職員アンケート	16%	79%	5%	0%	0%					
保護者アンケート	14%	67%	5%	1%	13%					
地域住民アンケート	6%	61%	11%	0%	22%					
教職員アンケート	12%	76%	12%	0%	0%					
保護者アンケート	12%	62%	8%	1%	17%					
地域住民アンケート	28%	61%	6%	0%	6%					
教職員アンケート	26%	63%	0%	11%	0%					
保護者アンケート	27%	59%	7%	2%	4%					
地域住民アンケート	50%	44%	0%	0%	6%					
教職員アンケート	33%	50%	17%	0%	0%					
保護者アンケート	24%	64%	5%	1%	7%					
地域住民アンケート	61%	33%	0%	0%	6%					